



第9回学術コミュニケーションセミナー（月刊JPCOAR）

オープンアクセス契約の 類型化と課題

東京大学附属図書館
立原ゆり

用語の整理

- **オープンアクセス（OA）**：

- 学術情報をウェブ上に無料公開することで、誰もが障壁なくアクセスできるようにする仕組みのこと

- **グリーンOA（セルフアーカイビング）**：

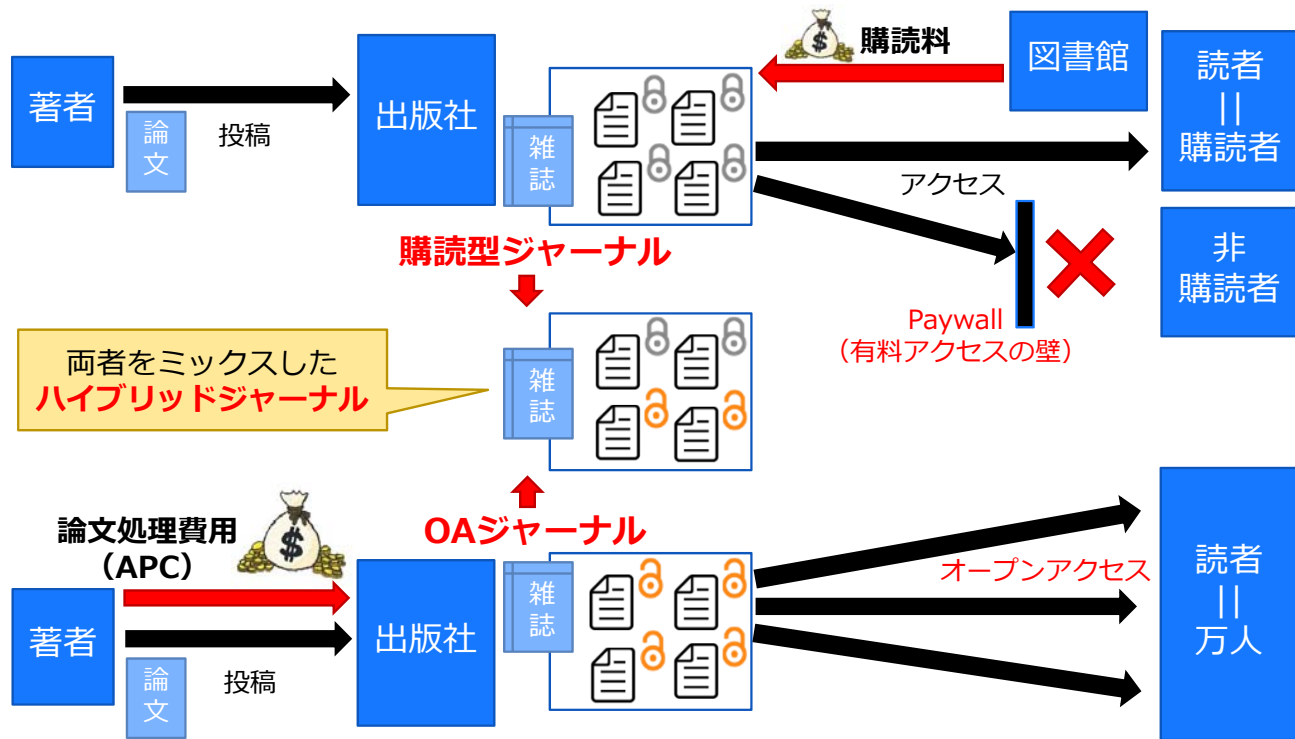
- 研究者自らが自著論文をリポジトリなどに登録（セルフアーカイブ）し、無料で公開する方法

- **ゴールドOA（オープンアクセス誌）**：

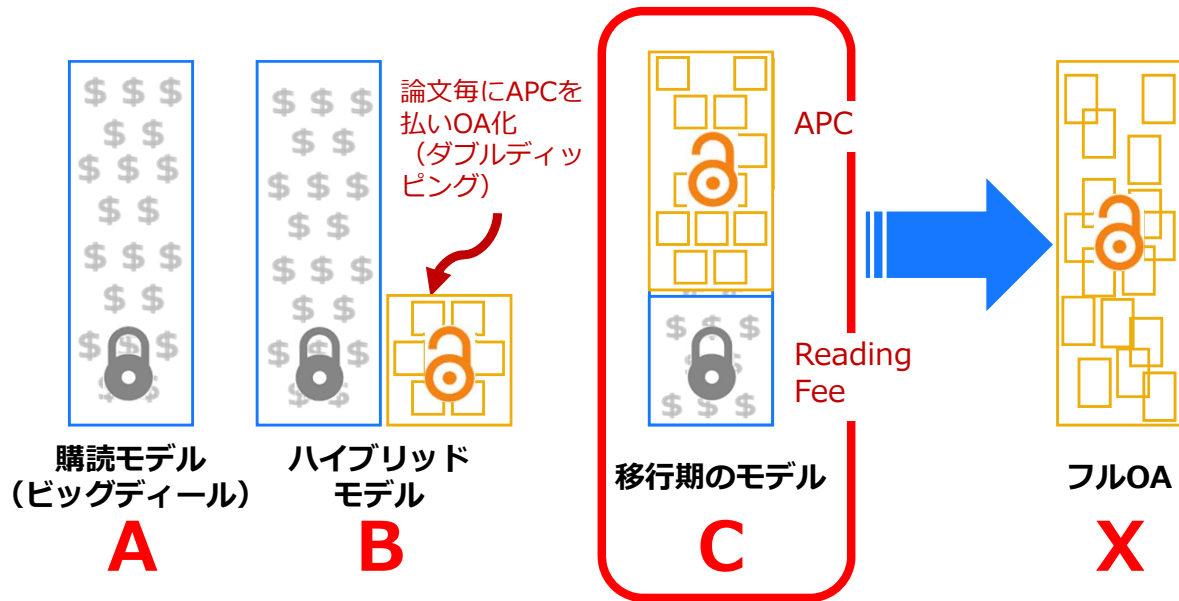
- 著者が論文出版料（APC：Article Processing Charge）を支払うことにより、学術論文を無料で読めるようにする方法

“オープンアクセス契約”とは？

購読型ジャーナルとOAジャーナル



オープンアクセスへの移行



(参考) 細川 聖二. 海外における学術雑誌のオープンアクセス化の動向. 国立大学図書館協会総会研究集会. 2017年6月23日. https://www.janul.jp/j/organization/minutes/research_meeting/index.html

国際的な動向

- **OA2020 (2016～)**

- 学術雑誌のOAへの転換を目指す国際的イニシアティブ
- 購読モデルからOA出版モデルへの転換による迅速・円滑なOA化の実現を主張
- 46か国156機関が関心表明に署名、15出版社が支持（2022.5現在）
 - 日本からはJUSTICE（2016）、物性グループ（2017）が署名



- **cOAlition S (2018～)**

- 2021年から公的助成を受けた研究成果の完全かつ即時OA義務化を目標とし、実現のための10原則「**Plan S**」を掲げ、世界中の研究助成機関の参加を呼びかけ



- **ESAC**

- OA出版条件を含む転換契約のレジストリ
- 登録件数501件（2022.6.1現在）



オープンアクセス契約の様々な形態



Current Awareness Portal
図書館に関する情報ポータル

CA-R	CA-E	CA	調査研究
------	------	----	------

ホーム

米・オハイオ州の図書館コンソーシアムOhioLINK、英・ケンブリッジ大学出版局とRead & Publish契約を締結

Posted 2022年1月4日

2022年1月3日、米・オハイオ州の大学図書館等で構成される図書館コンソーシアムOhioLINKは、英・ケンブリッジ大学出版局（CUP）との間で3年間のRead & Publish契約を締結したことを発表しました。加盟機関にオープンアクセス（OA）出版を提供するため、OhioLINKがコンソーシアムレベルで締結した初のRead & Publish契約とあります。



Current Awareness Portal
図書館に関する情報ポータル

CA-R	CA-E	CA	調査研究
------	------	----	------

ホーム

英・Jisc、米国科学アカデミー（NAS）と2年間の“Publish and Read”契約を締結

Posted 2021年7月12日

2021年7月7日、英・Jiscは、米国科学アカデミー（NAS）と“Publish and Read”契約を締結したことを発表しました。契約期間は2021年7月から2023年6月までの2年間となっており、NASにとって国レベルのコンソーシアムとの転換契約締結は初めてとなります。

参加機関に所属する英国の責任著者（corresponding authors）は、出版費用を負担することなく、『米国科学アカデミー紀要』（PNAS）にオープンアクセス（OA）論文を掲載することができます。また、参加機関の研究者は、1915年までさかのぼるPNASの全コンテンツに無料でアクセスできるようになります。



科学技術情報プラットフォーム

～イノベーションに向けて～

Japan Information Platform for S&T Innovation

Google提供

検索



[HOME](#)
[JST情報事業について](#)
[ニュース](#)
[お知らせ](#)
[パンフレット](#)

HOME > STI Updates > 2022年 > 4月

ニュース (STI Updates)

キーワード検索

2022年

2021年

2020年

2019年

2018年

2017年

Springer Nature社、スウェーデンのBibsamコンソーシアムとTAを締結

ヨーロッパ 2022年04月01日

Springer Nature社は、3月14日、スウェーデンのコンソーシアムBibsamコンソーシアムとTA（Transformative Agreement、転換契約または移行契約）を締結した。

これにより、同コンソーシアムの10の参加機関の著者は、同社の完全OA（オープンアクセス）ジャーナルと2,000以上のハイブリッドジャーナルで費用負担なしにOA出版できるほか、すべての購読コンテンツにアクセスできるという。

「ニュー・フォーラム」



科学技術情報プラットフォーム

～イノベーションに向けて～

Japan Information Platform for S&T Innovation

Google提供

検索



[HOME](#)
[JST情報事業について](#)
[ニュース](#)
[お知らせ](#)
[パンフレット](#)

HOME > STI Updates > 2022年 > 4月

ニュース (STI Updates)

キーワード検索

2022年

2021年

2020年

2019年

2018年

2017年

2016年

Annual Reviews、アカデミックジャーナルのS20モデル転換を発表

北米・中南米 2022年04月07日

非営利出版社のAnnual Reviewsは、4月5日、全51のアカデミックジャーナルを今後18カ月以内にS20（Subscribe-to-Open）モデルに転換すると発表した。

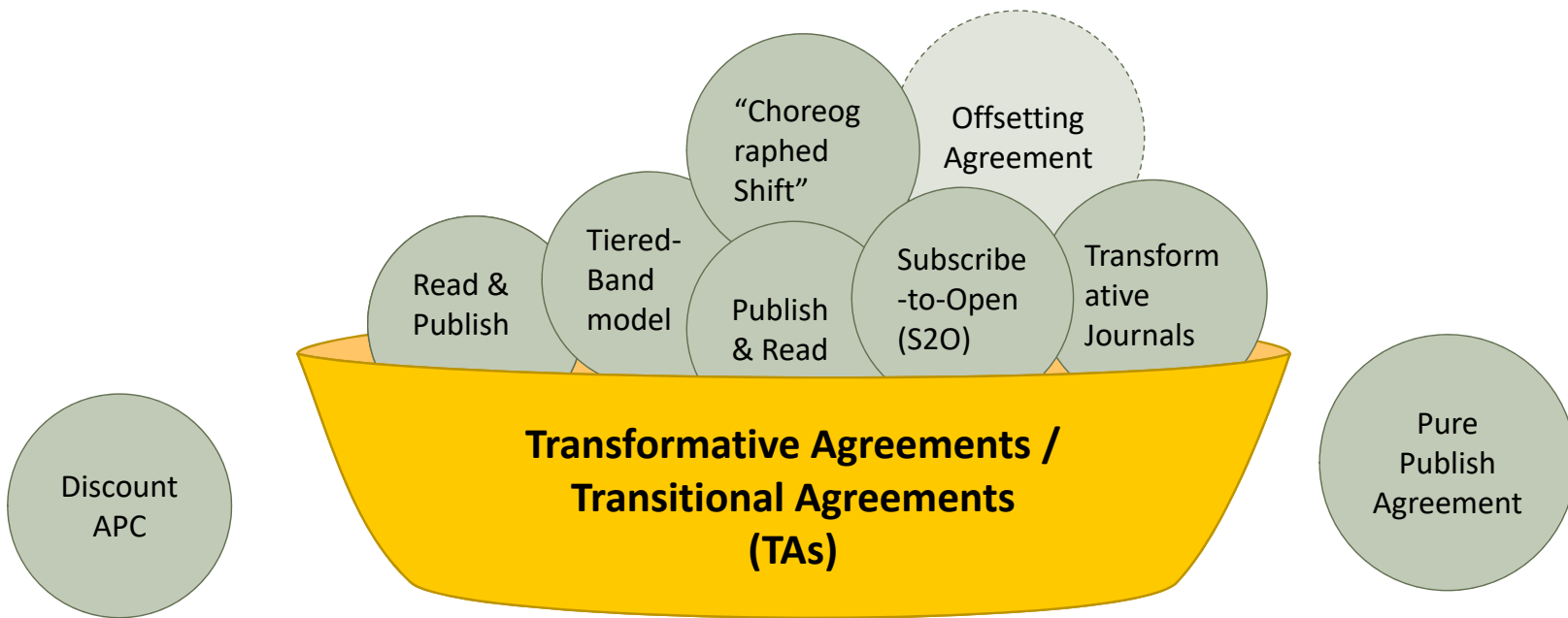
Annual Reviewsが2020年にCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）パンデミックにより、試験的に全ジャーナルをOA（オープンアクセス）化したところ、アクセス数が4倍以上に増加したことが今回の決定の背景となっている。

ジャーナルを購読する図書館など機関の十分な参加を前提とするS20モデルの適用により、該当するジャーナルが即時かつ公正にOA化されるが、十分な参加が得られなければ購読料支払いが必要となる。

OA契約の様々な種類

- Read & Publish
- Publish & Read
- Transformative Agreement (TA)
- Subscribe-to-Open (S2O)
- Pure Publish Agreement
- “Choreographed shift”
- Transformative Journals
- Tiered-Band model
- Discount APCs

...and more



オフセット契約 (Offsetting Agreement)

- 購読料とAPCを相殺することを目指した契約
- 契約機関はAPCを無料（免除）または割引で支払うか、個々の論文に対して支払ったAPC料金分を翌年の購読料から差し引く
- 出版社による購読料とOA出版料の二重取り回避を強く意識したモデル
- 2014年頃から英国・Jiscコンソーシアムで試行され、Wiley（2015-2017）、SpringerNature（2016-2018）など主要出版社と契約
- オフセット契約はOA促進につながる可能性がある一方で、ビッグディール契約継続を前提としたものであるという課題も



転換契約へ

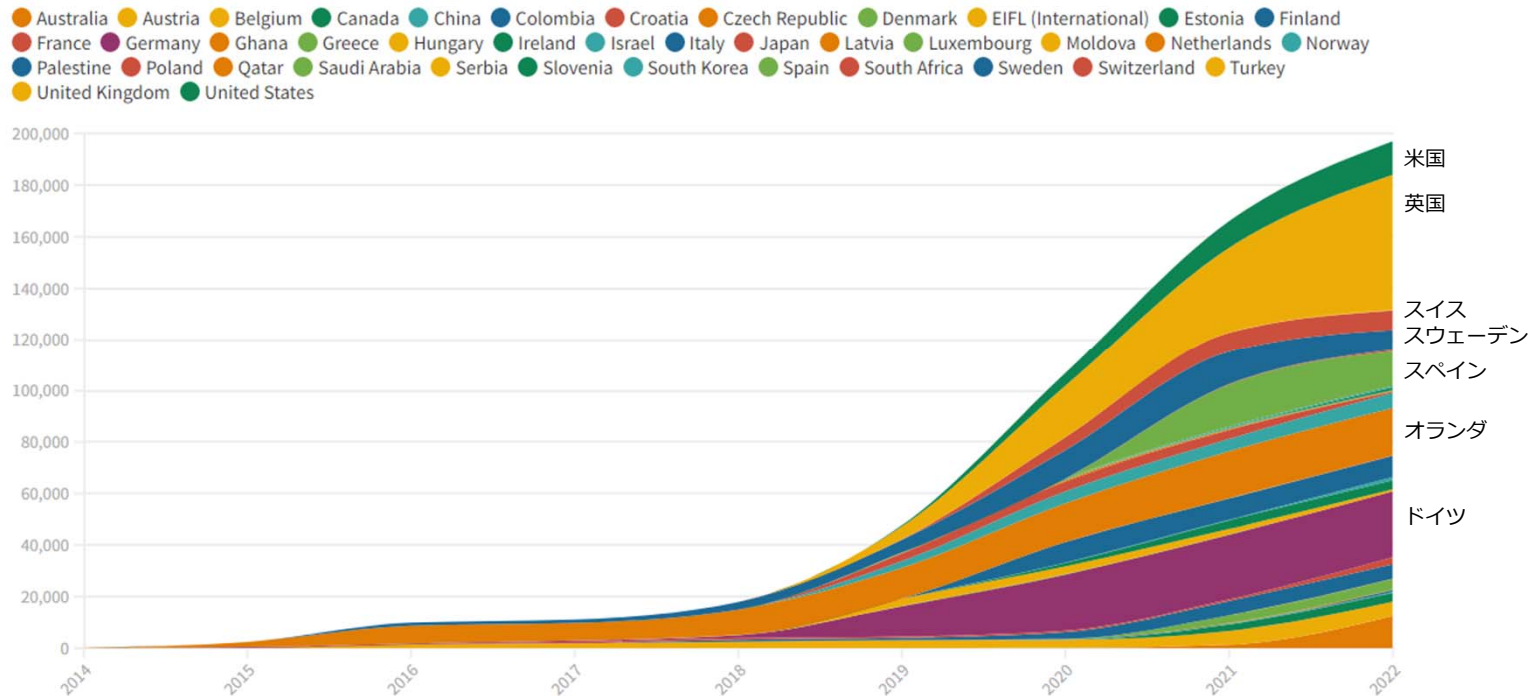
Earney, Liam. 2017. "Offsetting and Its Discontents: Challenges and Opportunities of Open Access Offsetting Agreements". Insights 30 (1): 11–24. DOI: <http://doi.org/10.1629/uksg.345>

転換契約 (TA: Transformative Agreement)

- 学術出版のビジネスモデルを、購読料に基づくモデルからOA出版（APC）に基づくモデルへと転換する契約の総称
- 転換契約の特徴
 - 著作権：出版社に譲渡されるのではなく、著者が保持することを原則とする。出版論文のライセンスとしては、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC BYを推奨
 - 透明性：契約条件を公にすることを原則とする。実際には、契約書の全文が公開されることもあれば、骨子のみが提供される場合もある。
 - 過渡的：転換の道筋を模索するための過渡的なモデル。最終的には、購読のための支払いをなくすことが目標とされている
- 国やコンソーシアムにより様々な条件で試行
 - （例）カリフォルニア大学：Elsevierと交渉決裂・アクセス遮断（2019-2020）の後、4年間の転換契約に合意（2021.4-2025.3）

Lisa Janicke Hinchliffe. 2020. "Revisiting — Transformative Agreements: A Primer". The Scholarly Kitchen.
<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2020/02/06/revisiting-transformative-agreements-a-primer/>

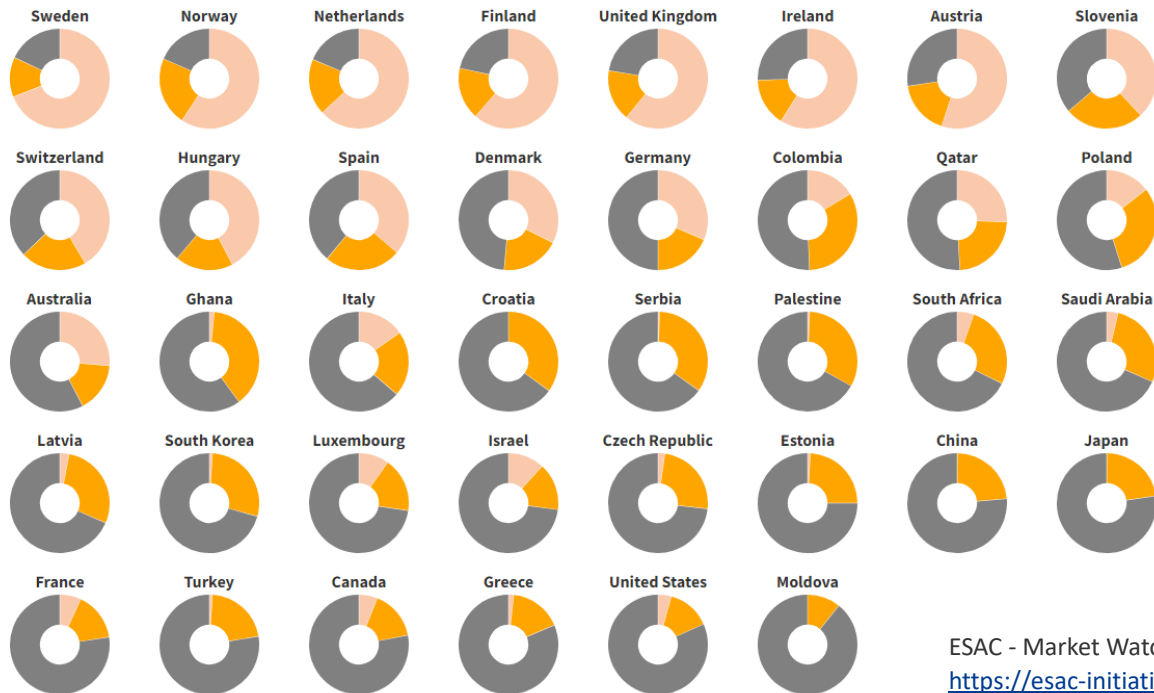
転換契約によるOA論文数の推移



ESAC - Market Watch <https://esac-initiative.org/market-watch/>

轉換契約 国別の導入状況

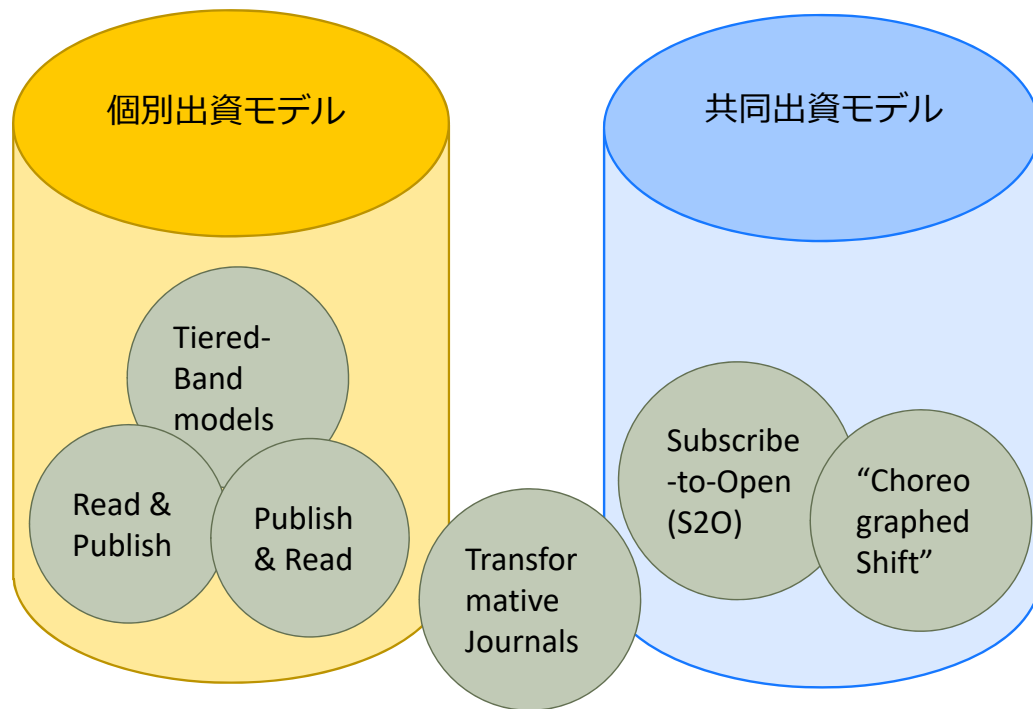
Transformative agreement Fully OA journal Hybrid/Closed



ESAC - Market Watch (2022年6月3日時点)

<https://esac-initiative.org/market-watch/>

轉換契約 2つのタイプ



Read & Publish (R&P) モデル

個別出資モデル

- 購読料とAPCを一括で支払う。購読料が価格算出のベース
- 電子ジャーナルへのアクセス権を確保できるとともに、所属研究者は個別にAPCを支払うことなく論文のOA出版が可能になる
- R&PでのOA出版：
 - 機関所属著者による前年のAPC支出額（合計）をもとに加算
 - おおむね「機関所属者が責任著者（Corresponding Author）の論文」に限定
 - APC定価よりも割安
 - 出版数の上限、対象誌の制限が設けられていることがある
- 合意可能な最低条件
 - これまでの支出（購読料+APC）の範囲内
- 例）Jiscコンソーシアム：Wileyと4年間のR&P契約。2022年にOA率100%へ

国内4大学とWileyのR&P契約

2022年 | プレスリリース・研究成果



東北大学・東京工業大学・総合研究大学院大学・東京理科大学と Wiley、日本発の研究成果のオープンアクセス化の促進に関する覚書 に署名

2022年2月 8日 10:00 | プレスリリース・研究成果

【概要】

国立大学法人東北大学、国立大学法人東京工業大学、国立大学法人総合研究大学院大学（総研大）、学校法人東京理科大学の4大学の図書館長と、研究・教育分野をリードするグローバル企業Wiley（日本法人：ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社）は、2022年1月31日付にて、論文のオープンアクセス出版に関する新たな覚書に署名しました。この覚書は、近年世界的に広まっている「転換契約」(transformational agreement、用語1)と呼ばれる、ジャーナル購読モデルからオープンアクセス（OA）出版モデルへの転換を目指す契約を見据えたものであり、日本発の研究成果の論文発表におけるオープンアクセス化を一層促進する取り組みとなります。

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/02/press20220208-01-Axess.html>

Publish & Read (P&R) モデル

個別出資モデル

- 「1論文あたりの出版費用」が価格算出のベース
- 契約額 = 1論文あたりの出版費用 (P&R単価) × 年間論文出版数
- P&R単価にはOAではない論文へのアクセス権も含まれるため、APC定価と同等ではない
- 例) 独・Project DEAL : WileyおよびSpringerとP&R単価 : €2,750で契約締結

Tiered-Band モデル

個別出資モデル

- 出版社が区分（Tier）を設定
- 論文出版実績に応じた区分に分類される
- 無制限の論文出版、論文へのアクセスを保証
- 全世界共通の価格設定。機関によっては従来の購読料よりも大幅な値上げとなる可能性がある
- 例) ACM OPEN
 - <https://libraries.acm.org/subscriptions-access/acmopen>
 - 年間75本以上の論文を出版する場合（Tier 1）：\$100,000
 - 年間0～3本の論文を出版する場合（Tier 10）：\$8,000
 - OA化が進むにつれ、論文出版が少ない機関から多い機関へ、段階的にコスト負担が移行していく仕組み（最も下位のTier 10は段階的に価格が下がり、上位のTierは価格が上がる）

“Choreographed Shift”

共同出資モデル

- OA化を推進し資金を集める団体を振付師（Choreographer）、図書館・出版社・研究者をダンサーになぞらえた呼び方
- 図書館がコンソーシアムを作り、参加館から出資金を集め、それを財源として学術誌や学術書などのOA化を推進する仕組み
- 参加館は出版や購読の割合に応じた金額を拠出
- 実施・管理が複雑
- 例) SCOAP3、Knowledge Unlatched
 - SCOAP3（Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics）
 - 欧州合同素粒子原子核研究機構（CERN）が中心となり、高エネルギー物理学分野の査読付き学術論文をOA化
 - Knowledge Unlatched
 - 2012年に設立された非営利団体。主に人文社会科学系の学術書をOA化

Wise, A., Estelle, L., 2019. Towards transition strategies and business models for Society Publishers who wish to accelerate Open Access and Plan S. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.8398406.v1>

Subscribe to Open (S2O)

共同出資モデル

- 出版社は年間購読料収入を原資に雑誌をOAで刊行
- 購読料収入が目標に達しなかった場合はOA化されず、アクセスには年間購読契約が必要になる
- S2O料金は通常購読価格からの割引が適用される
- OA化が達成されても、バックファイルへのアクセスにはS2Oへの参加が必要
- 例) Annual Reviews, Berghahn Books, EDP Sciences ...
 - <https://subscribetoopencommunity.org/>

Transformative Journals

- Plan Sの定義：「完全なオープンアクセスジャーナルへの転換に積極的に取り組んでいる購読型／ハイブリッドジャーナル」
 - <https://www.coalition-s.org/transformative-journals-faq/>
- ハイブリッドジャーナルとの違い：
 - オープンアクセスジャーナルへの転換を明確に約束している
 - 転換KPI（OAコンテンツの割合が、前年比で絶対値で5%以上、相対値で15%以上増加）を毎年達成している
 - 二重支払いを回避するための明確な方針を策定している
 - コンテンツの75%がOA化された時点で、フルOA誌に転換する
- Plan S準拠のTransformative Journals：16出版社・2,331誌（2022.6.1現在）
 - 最も多いのがSpringer Nature、Nature本誌も含まれる

APC割引 (Discount APCs)

- 購読（ビッグディール）に付随する
- 割引を受けるために、購読料に追加費用が必要な場合もある
- 論文出版数に制限がある場合もある
- フルOA誌は対象外など、割引適用可能なタイトルに制限がある場合もある
- 例) AAAS “Science Advances”誌
 - <https://www.science.org/content/page/science-advances-licensing-and-charges>
 - “Science”等、AAASジャーナルの購読機関に所属する著者はAPCの割引が受けられる
- 例) JUSTICE: ElsevierからのOA出版割引を含めた契約の提案に合意
 - <https://current.ndl.go.jp/e2381>
 - 購読費にOA出版割引を受けるための経費を加算した金額を支払うことで、契約機関に所属する著者はAPCの割引が受けられる
 - Cell、Lancet等のハイブリッドジャーナルは割引適用対象外

Pure Publish 契約

- 大学と出版社との間で合意された支払いにより、著者が個別に料金を負担することなくフルOAジャーナルに出版できるようになる契約
- 内容はAPCの割引や、特定期間内に無制限に出版できる定額料金制
- OA専門出版社と単独に締結される場合もあれば、転換契約の中の構成要素のひとつとして組み込まれる場合もある
 - （例）PLOSのInstitutional Partnerなど
 - （転換契約の構成要素の例）独・Project DEAL：WileyおよびSpringerのフルOA誌にはAPC20%割引で論文出版可

Lisa Janicke Hinchliffe. 2020. “The ‘Pure Publish’ Agreement”. The Scholarly Kitchen.
<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2020/02/20/pure-publish/>

オープンアクセス契約の課題

課題

- コスト負担
 - 予算の集約・再配分の調整
 - OA出版費用を国や機関が負担し続けられるのか
- グローバルに足並みを揃えられるか
 - 世界各国・各地域が揃ってOA転換に進まなければ、購読（アクセス）に係る費用はなくせない
- APCの値上がり
 - 2022年現在：\$5,890（Nature Communications・フルOA誌）
\$11,390（Nature・ハイブリッド誌）
- バックファイルへのアクセス
 - 過去に公表された論文を読むための費用・方策が必要
- オープンアクセスの持続可能なモデル？

参考文献

- Earney, Liam. Offsetting and Its Discontents: Challenges and Opportunities of Open Access Offsetting Agreements. Insights. 2017, 30(1), p.11-24. <http://doi.org/10.1629/uksg.345>, (参照 2022-06-07)
- Wise, A., Estelle, L., "Towards transition strategies and business models for Society Publishers who wish to accelerate Open Access and Plan S". 2019, <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.8398406.v1>, (参照 2022-06-07)
- Technopolis Group. "Read & Publish contracts in the context of a dynamic scholarly publishing system". European University Association. 2020, <https://www.eua.eu/component/attachments/attachments.html?id=2917>, (参照 2022-06-07)
- Lisa Janicke Hinchliffe. "Revisiting — Transformative Agreements: A Primer". The Scholarly Kitchen. 2020, <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2020/02/06/revisiting-transformative-agreements-a-primer/>, (参照 2022-06-07)
- Lisa Janicke Hinchliffe. "The 'Pure Publish' Agreement". The Scholarly Kitchen. 2020, <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2020/02/20/pure-publish/>, (参照 2022-06-07)
- Allison Langham-Putrow. "Evaluating Publisher Open Access Agreements". Digital USD. 2022, <https://digital.sandiego.edu/symposium/2022/2022/15/>, (参照 2022-06-07)
- 尾城孝一. 学術雑誌の転換契約をめぐる動向. カレントアウェアネス. 2020, (344), CA1977, p.10-15. <https://current.ndl.go.jp/ca1977>, (参照 2022-06-07)
- 尾城孝一. もうひとつの図書館クラウドファンディング ~図書館共同出資モデルによるオープンアクセスの推進~. 情報の科学と技術. 2019, 69(11), p.523-525. https://doi.org/10.18919/jkg.69.11_523, (参照 2022-06-07)
- 小左和子, 矢野恵子. ジャーナル購読からオープンアクセス出版への転換に向けて—欧米の大学および大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) における取り組み—. 大学図書館研究. 2018, 109, p.2015-1-2015-15. <https://doi.org/10.20722/jcul.2015>, (参照 2022-06-07)